

長いこと人間の精神活動を支えてきた教ある宗教の中には、女性に対して厳しい戒律を定めているものも、少なくありません。その民族の習慣やその風土などと照らし合わせれば、それなりの合理性があるのだと思いますが、日本人の私たちからすると、いかにも不便そうで同情したくなるものの一つが、イスラム教での女性の黒ずくめスタイルです。

ホメイニ師が実権を握ってからのイランでは、すっかり西欧化していた女性の服装が再び真っ黒になってしまい、チャドル（頭からかぶる黒い布）から、少しだけ髪の毛が出ていた女性が逮捕されるほどだとか。ですから、手や足をむき出しにしてスポーツをやるなんていうことは、なかなかむずかしい状況のようです。

こんな中東の国々に、日本の女性武道家が昨年暮れ、実技指導をしてきました。合気道では女性で最高の5段の資格を持つ鈴木順子さんです。

— 何カ国、回られたんですか。

「バーレーン、ヨルダン、アラブ首長国連邦の阿布ダビとドバイです」

— 実際には、どのような指導をされたのですか。

「約3週間で14カ所を回り、演武を披露しました。日本人学校や、大学、それにヨルダンでは、女性

初の女性合気道指導者として、中東諸国に日本武道を広めてきました。

## 鈴木順子さん

都立農芸高校2年のとき、三味線、琴、合気道のうち1つをやりたいと思い、自宅に近い合気道本部道場をのぞいて「これだ」と決心。その後、「合気道を続けられる職場なので」婦人警官に。3年間、務めて「さらに合気道に打ちこむため」退職。現在、財団法人合気会で経理等の仕事をしながら、高校、大学、社会人などのグループを6カ所で指導。昨年、女性では2人目の最高位の5段に。昭和28年、東京生まれ。32歳。



ヨルダンの女性スポーツクラブ（中央が鈴木さん）

スポーツクラブ・にも行ってきました」

— あちらにも、女性スポーツクラブがあるのですか。驚きました。

「私たち（一行は市橋紀彦本部道場師範ら4人）が回った国々は、チャドル姿の女性はそれほど多くありませんでした。中でもヨルダンは、貧しい国ですが、女性はヨーロッパと同じように自由な雰囲気でした」

— 中東では空手に人気があると聞いていますが、合気道は普及しているのですか。

「いえ、まだほとんど知られていません」

— 各国での手応えはどうでしたか。

「基本技、迎え技、短刀取り、太刀取りなどを見ていただきましたが、バーレーンではテレビ番組で紹介されましたし、皆さん、とても興味を持ってくださいました」

— 紺のハカマをつけるスタイルというのが、空手や柔道にはないエレガントさを感じさせます。「そのせいかどうか、このところ女性の愛好者がふえてきましたね」

— 合気道の素晴らしさって、何ですか。

「ことばではちょっといいにくいのですが、高校二年の時に初めて見て気に入りました。スポーツというのは、自分が夢中になれて、それをするこゝとで生き生きできるものが一番だと思います」